

TOSHIBA

東芝換気扇取付説明書（ダクト用）

販売店・工事店さま用

形名
(2室用)

DVP-G10L8, G14L8, G14LQ8

国内専用品
Use only in Japan

この換気扇の注意事項をよく知っていただき、正しく取り付けていただくためにこの取付説明書をよくお読みください。（形名により図が一部異なります。）
この取付説明書は工事完了後、お客様にお渡しください。
別売部品をご利用ください。（詳しくはカタログをごらんください。）

安全上のご注意

取付の前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しく取り付けてください。
ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので必ず守ってください。
表示と意味は次のようになっています。

表 示	表示の意味
警告	誤った取り扱いをすると人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
注意	誤った取り扱いをすると人が傷害を負ったり、*物的損害の発生が想定される内容を示します。

* 物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。

表 示	図記号の意味
改造禁止	○は、禁止（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は、○の中や近くに文章や絵で示します。 左図の場合は「改造禁止」を示します。
アースを接続する	●は、強制（必ずすること）を示します。 具体的な強制内容は、●の中や近くに文章や絵で指示します。 左図の場合は「アースを接続する」を示します。

取付設置完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。また、この取付説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。

警告	
	改造はしない 火災・感電・けがの原因になります。
	修理技術者以外の人は分解、修理（ ）をしない 火災・感電・けがの原因になります。 修理はお買上げの販売店または東芝家電修理ご相談センターにご連絡ください。
	アースは確実に取り付ける 故障や漏電したとき、火災・感電の原因になります。アースの取付は販売店や電気工事店を通じ、電気工事士へ依頼してください。
	メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属性ダクトが貫通する場合、金属性ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないよう取り付ける 漏電した場合、火災の原因になります。
	内釜式風呂を設置した住宅には取り付けない 排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こす原因になります。
	電源は交流100Vを使う 交流100V以外の電源を使うと、火災・感電の原因になります。
	煙突排気の燃焼器具がある住宅に据えつけるときは、十分な大きな空気取入口を別にする 排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起こす原因になります。
	包装用ポリ袋は幼児の手の届かない所に廃棄または保管する 頭からかぶれると、口や鼻を塞ぎ、窒息する原因になります。
	ガス漏れのときは、窓を開けて換気する 電源スイッチを入れたり切ったりすると、ガス爆発の原因になります。
	水や洗剤などをかけたり、吹きつけたりしない 漏電により、火災・感電の原因になります。

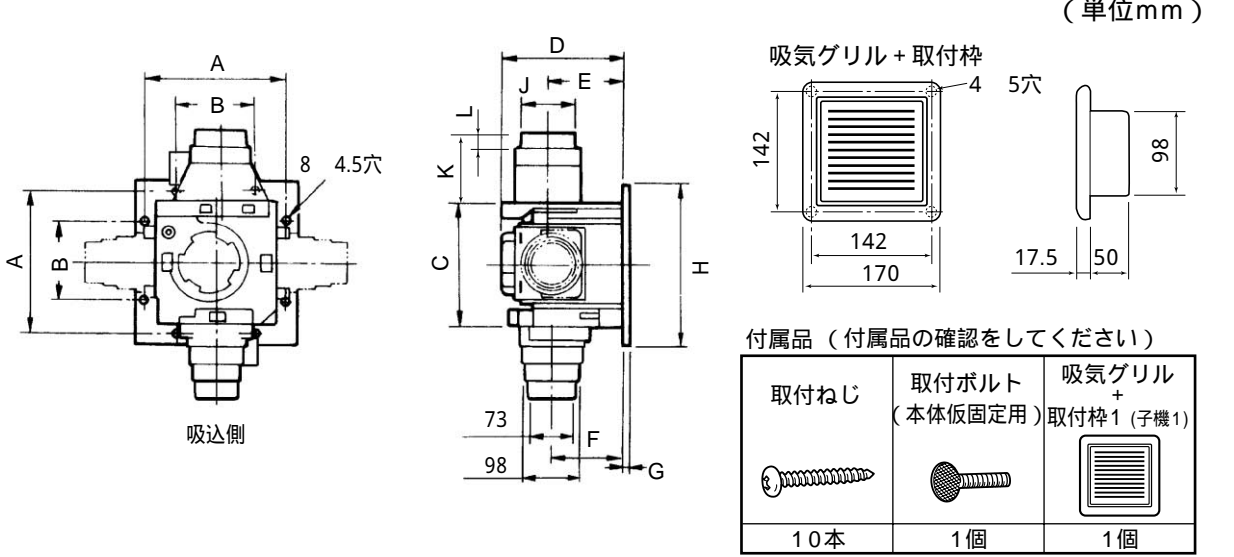
注意	
	浴室内には壁スイッチを取り付けない 火災・感電の原因になります。
	炎が当たる恐れのある場所には取り付けない 火災の原因になります。
	強度のある場所に確実に取り付ける 落下により、けがをする原因になります。
	本体カバーや部品は確実に取り付ける 落下により、けがをする原因になります。
	電気工事は必ず電気工事店に依頼する 電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実に行う 電源電線の接続は機械的な方法で確実に接続する 火災の原因になります。
	浴室など湿気の多いところや水のかかるところでは浴室用機種を使う 火災・感電の原因になります。
	製品の取り付けのときは、手袋を着用する 手袋を着用しない、けがの原因になります。

取付上のお願い

次のような場所には取り付けないでください。
1. 高温（40℃以上）になる場所
ガスレンジの真上
ガス湯沸器の真上（横方向へ50cm以上離してください。）
換気機能のない浴室、乾燥機を使用する浴室
2. 台所など油煙の多い場所
3. 腐蝕性ガスの発生する場所
点検口を必ず設けてください。
次のようなダクト工事はしないでください。
(1) 極端な曲げ (2) 多数回の曲げ
(3) 接続ダクト径を極端に小さくする (4) 排気口のすぐ近くでの曲げ

ダクトと排気口をテクスねじなどで止めないでください。
シャッターが開かなくなる恐れがあります。
地域によっては樹脂製換気扇およびジャバラが使えないことがあります。
（詳細は行政官庁または消防署にお問い合わせください。）
共同ダクトへ排気するときには、建築基準法施行令により防火の役割を果たすものを使用することが義務づけられていますので、2mの鋼板立上がりダクトを取り付けるか、システム部材の防火ダンパーを取り付けてください。
効率よく排気させるため排気ダクトと同じ大きさの空気の入入口を部屋の反対位置に設けてください。
浴室と他の部屋（トイレなど）を組み合わせで使用するとき。
換気扇本体は必ず、浴室側に取り付けてください。換気扇本体をトイレ側に付けますと、冬期に浴室の湯気が、換気扇本体で結露し水滴が落ちることがあります。
業務用24時間風呂のような常時湿気のある場所では寿命が短くなる場合があります。

製品寸法

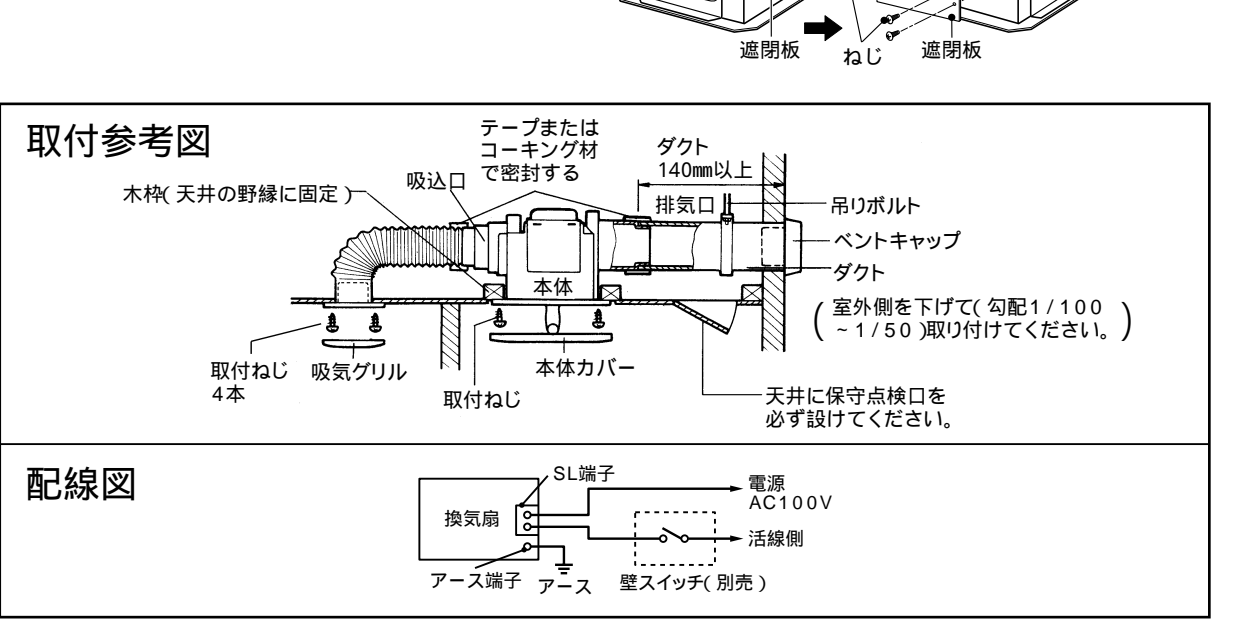


取付方法

取付工事前に本体に異常音、変形などの異常がないか確認してください。
取付時、板金部品の端面で手を滑らせると手が切れる場合がありますので手袋を着用してください。

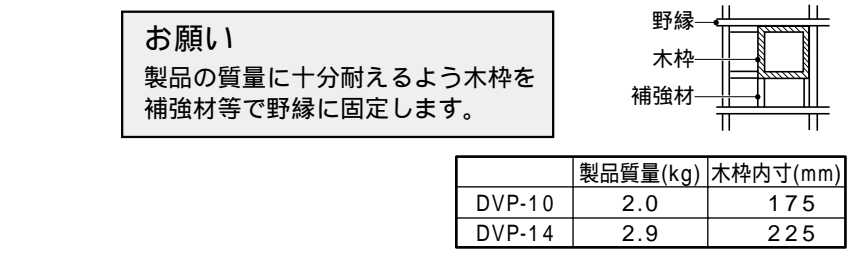
取り付ける前に

建物および部屋の配置により、取付位置・排気方向・吸込方向を決めてつぎの準備をしてください。
排気口を本体よりはずします。
吸込方向を決め、遮へい板の入れ替えをします。
吸込方向となる側の遮へい板を右図のようにはずします。
使用しない吸込用開口口に遮へい板を右図のようにはめ込みます。

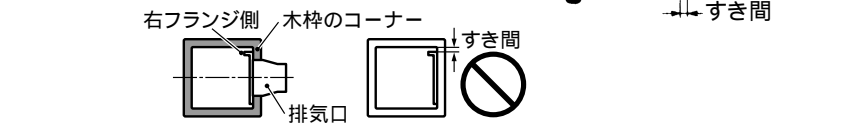


A.木枠に取り付けるとき

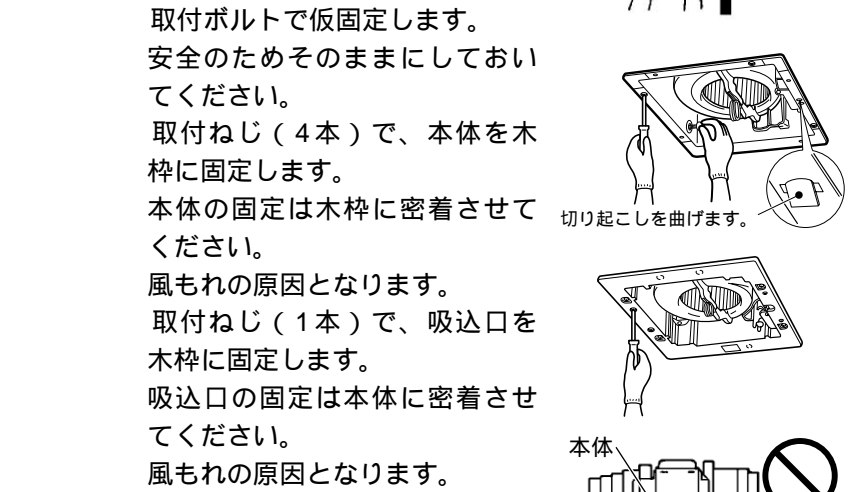
A-1 木枠内寸に合わせて木枠をつくり野縁に固定します。



A-2 排気口を固定します。
排気口を木枠と傾き及びすき間がないように、内側の穴に付属の取付ねじ（1本）で固定します。
排気口の右フランジ部を木枠のコーナーに合わせてください。

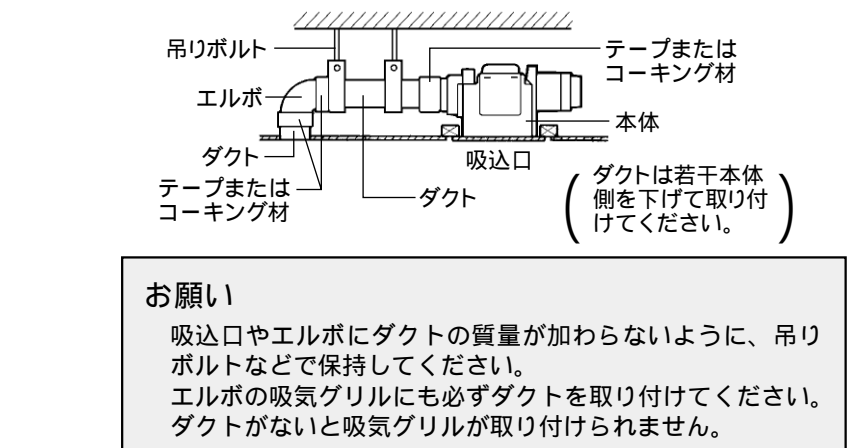


A-3 本体および吸込口を木枠に固定します。
吸込口をさきに木枠にくぐらせます。
本体を挿入し、吸込口及び排気口の上部穴に本体の凸部をはめ込みます。
取付ボルトで仮固定します。
安全のためそのままにしておいてください。
取付ねじ（4本）で、本体を木枠に固定します。
本体の固定は木枠に密着させてください。
風もれの原因となります。



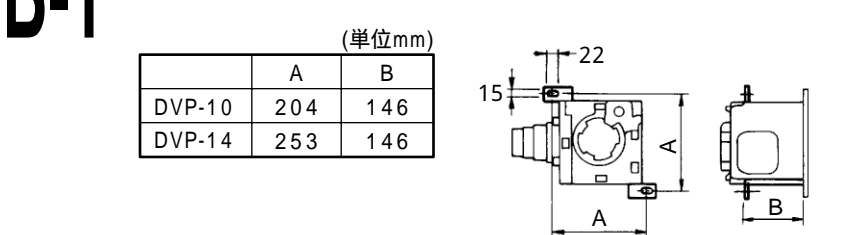
お願い
本体を木枠の上に固定しないでください。

A-4 換気扇本体と吸込グリルの間をダクトで接続し接続部をテープまたはコーキング材で密封します。
塩ビダクトを使用する場合

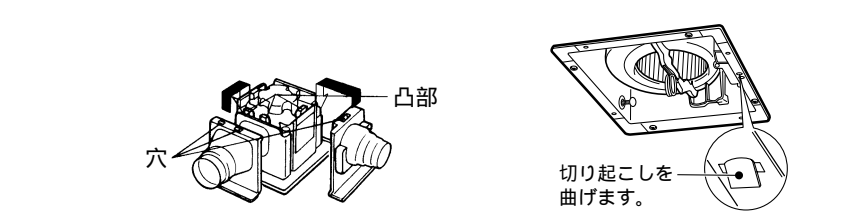


B.吊下金具を使用するとき

B-1 下図の寸法にアンカーボルトを埋込みます。



B-2 排気口および吸込口を本体に取り付けます。
本体の上部凸部に排気口および吸込口をはめ込みます。
排気口および吸込口の切り起こしを下図のように、ペンチなどで曲げ、本体に固定してください。



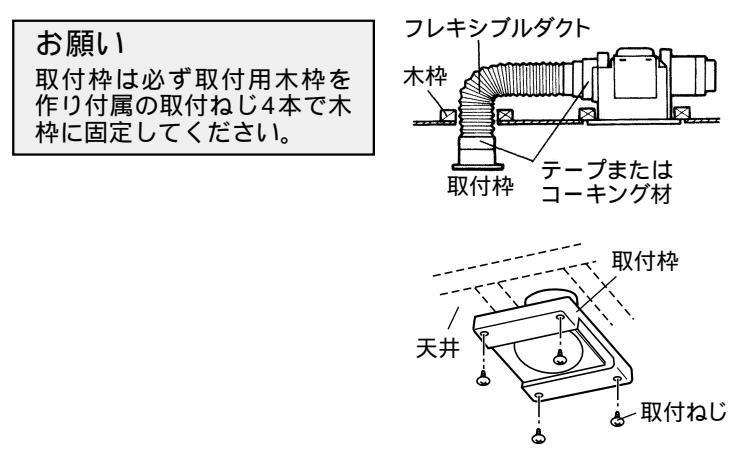
以上で取り付け完了です

つぎの点検を行ない異常がないか確認してください。

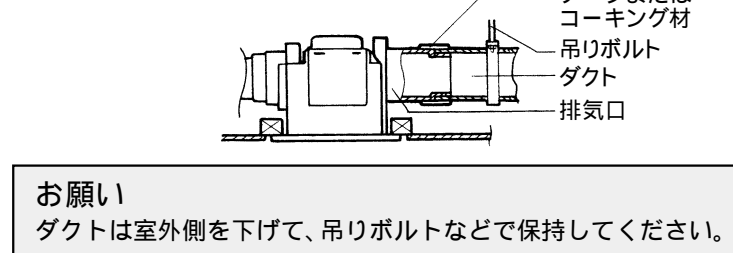
製品の取付強度が十分なこと。
運転したとき異常音、異常振動がないこと。
本体カバーが確実に取り付けられていること。

フレキシブルダクトを使用する場合

取付枠固定用木枠をつくり野縁に固定します。
天井板に穴を右図に示すようにあけます。
吸気グリルを取付枠からはずします。
フレキシブルダクトを木枠へ通し、室内側で取付枠と接続します。
取付枠を付属の取付ねじ4本で木枠へ固定します。



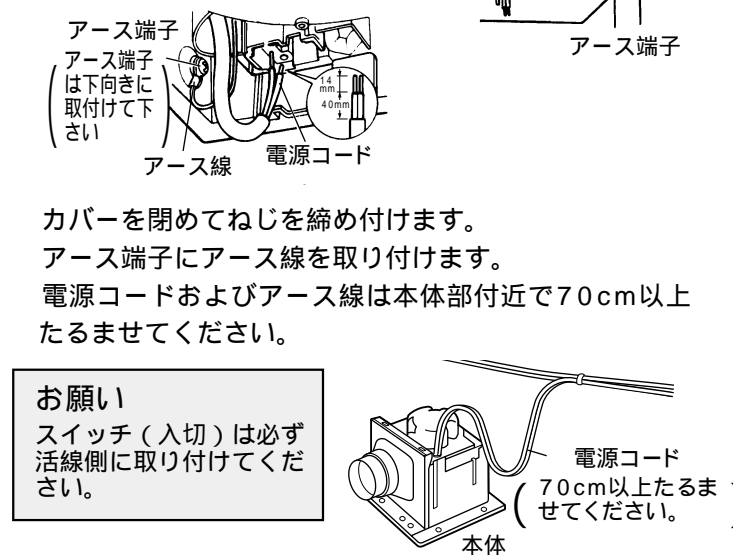
A-5 排気口にダクトをはめ込みテープまたはコーキング材で密封します。



お願い
ダクトは室外側を下げて、吊りボルトなどで保持してください。

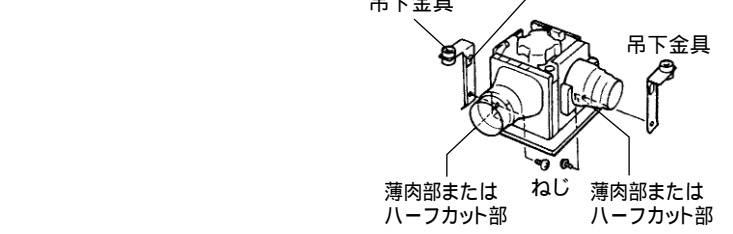
電源コードとアース線を接続します。

本体上部のプッシングから電源コード（VVF 1.6、2）アース線を差し込みます。
カバーのねじをはずし、カバーをあけます。
SL端子に電源コードの芯線を確実に奥まで強く差し込んでください。（電源被ふくは14mmむいてください）

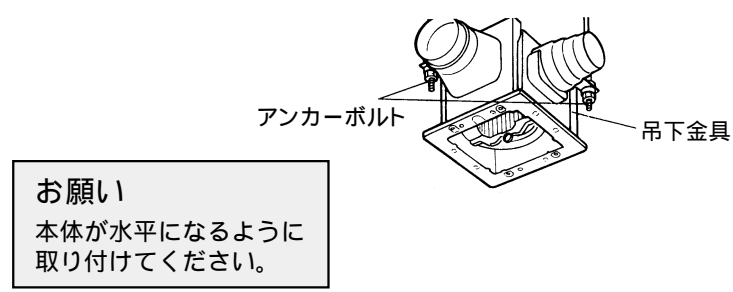


カバーを開けてねじを締め付けます。
アース端子にアース線を取り付けます。
電源コードおよびアース線は本体部付近で70cm以上たるませてください。

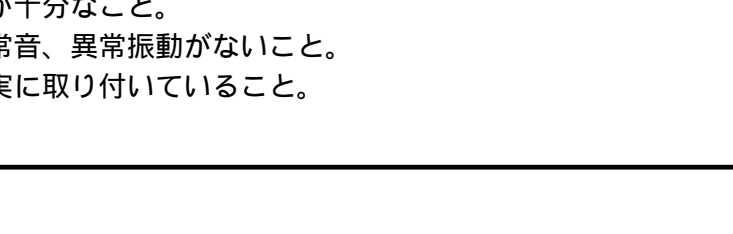
お願い
スイッチ（入切）は必ず活線側に取り付けてください。



B-3 吊下金具DV-2T（別売部品）を本体に取り付けます。
本体のハーフカット部をドライバーなどで打ち抜きます。（2カ所）

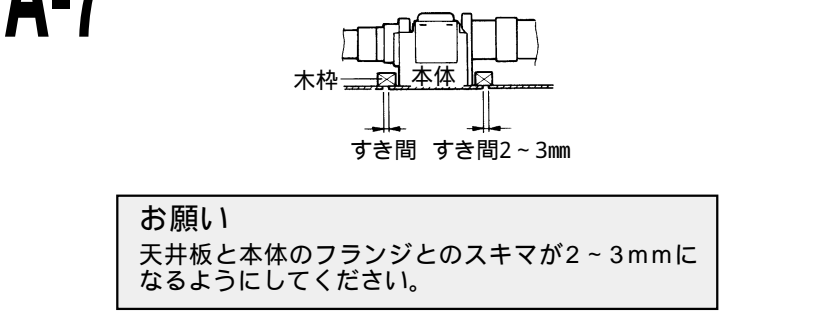


B-4 本体をアンカーボルトに取り付けます。

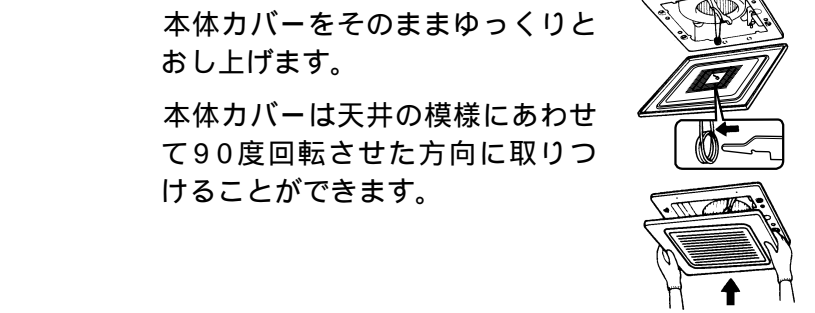


お願い
本体が水平になるように取り付けてください。

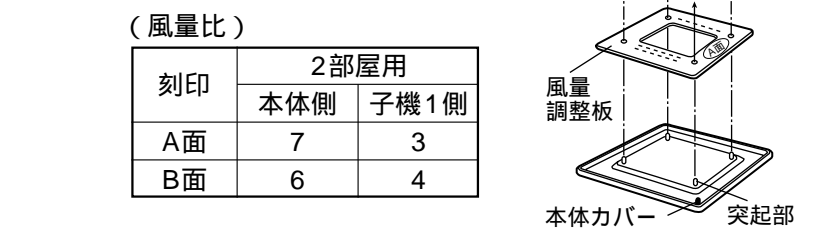
A-7 天井板を貼り付けます。



A-8 本体カバーを取り付けます。
本体からスプリングを止まるまでゆっくりと真下へ引き出します。
スプリングに引掛金具を引っ掛けます。
本体カバーをそのままゆっくりとおし上げます。
本体カバーは天井の模様にあわせて90度回転させた方向に取りつけることができます。

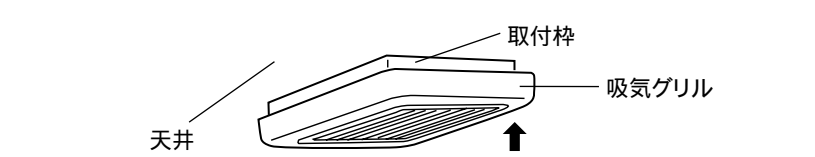


本体側と子機側の風量調整をするとき
風量調整板は、工場出荷時は「A面」の刻印が上の状態にセットしてありますが、風量調整板をうら返し（「B面」が上になる）にしてはめかえることによって、風量比をえることができます。



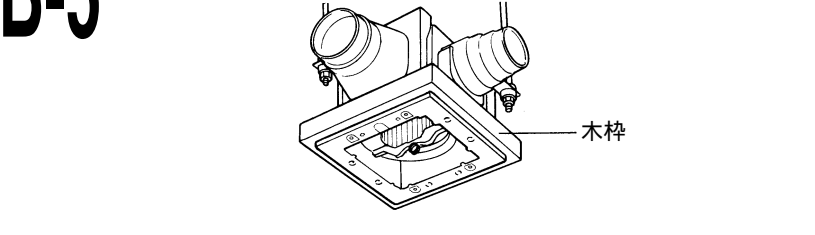
お願い
風量調整板を突起部に確実に挿入してください。

A-9 取付枠に吸気グリルを取り付けます。
吸気グリルは天井の模様にあわせて90度回転させた方向に取り付けることができます。



天井、取付枠、吸気グリルの位置が示されています。

B-5 本体に合わせて木枠を組み付けます。



B-6 本体、排気口および吸込口を木枠に固定します。
取付ねじで本体、排気口および吸込口を木枠に固定します。（6本）



B-7 以後の取り付けはA-4・5・6・7・8・9を参照してください。